

平成26年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(平石地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成26年度 第12回
まちづくり懇談会《平石地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《平石地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成27年2月17日（火）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 平石地区市民センター
- 3 参加者数 42人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当参事，平石地区市民センター所長，土木管理課長，広報広聴課長

5 懇談内容

（1）地域代表あいさつ

平石地区まちづくり協議会会長

（2）市長あいさつ

（3）地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	平石地区におけるLRT運行ルート上の駅設置と地域まちづくりについて	LRT整備室 土木管理課
2	柳田緑地の整備について	スポーツ振興課 道路建設課 道路保全課 公園管理課

（4）総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ
市民の学ぶ意欲と豊かなこころを育むために (1) 生涯にわたるスポーツ活動を促進する (2) 健全な青少年を育成する

(5) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	L R Tについて (1)	L R T整備室 土木管理課
2	市道305号線のスピード感ある整備を	道路建設課
3	平石中央小学校について	教育企画課
4	L R Tについて (2)	L R T整備室 道路建設課
5	校名 (市立鬼怒中学校) の見直しについて	教育企画課
6	L R Tについて (3)	L R T整備室

(6) 来賓あいさつ

市議会議員 南木 清一

市議会議員 郷間 康久

(7) 市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	平石地区における L R T 運行ルート上の駅設置と地域まちづくりについて
-----	---------------------------------------

平石地区内における L R T 運行ルートは、平成 26 年の 8 月 27 日の新聞に掲載された新 4 号国道交差部で、渋滞回避や速達性確保に影響があるということで、少し南下させるという話があった。その話について L R T の説明会を昨年 26 年 2 月に開催されたが、その時に 1 つの要望として「下平出駅」の設置、また、鬼怒川の自然を生かした地域まちづくりの拠点として「下平出～竹下間に新駅設置」を要望したが、回答がなされていない状況下にある。

この地域の主な産業は農業であり、L R T が通ることによって広大な農用地が転用されることは、農業従事者の最大の関心事である。また、鬼怒川の自然を守るために、クロコムラサキ生息地の保護活動や、川野菊育成地保全活動に地域住民が取り組んでおり、さらに河川敷のごみ拾いを行うなど、環境保全にも力を注いでいる。

そこで、平石地区まちづくりとして拠点整備は、利便性や集客性の観点から、「下平出駅」は地区市民センターの近くに設置していただきたい。市が進める「コンパクトシティ構想」進められているかと思うが、その中で地域内交通を検討して点から面への展開を志向したまちづくりが可能で、鬼怒川の自然を活用したサイクリングロード整備、動植物の生態系維持・観察、観光農園や農産物販売など、地域の資源を活かしたまちづくりができるとの意見もあり、これらは沿線住民となる可能性の高い地域住民の強い希望でもある。

市の東西を結ぶ交通機関として速達性も重要だが、地域住民が納得できる計画、納得できる整備仕方を一番要望して行きたいと思っているので、市長の見解、回答を願う。

回 答	所管課： L R T 整備室、土木管理課
-----	----------------------

【市長】

L R T の優先区間として駅東側を計画している。駅東側は J R 宇都宮駅から芳賀・高根沢工業団地までの、芳賀町を含めた整備区間約 15 キロメートルを想定している。L R T の停留場については、優先整備区間 15 キロメートルの中で 19 か所の停留場を作って行きたいと考えている。平石地区の中では、新 4 号国道付近の平出町停留場と平石中央小学校付近の下平出停留場の 2 つの停留場を想定している。

「下平出駅」については、平石地区内の L R T 運行ルートについて宇都宮向田線を通過するという条件で、交差点協議を交通管理者と行ったところ、新 4 号国道の交差部が現状よりも大幅に混雑してしまう恐れがあり、新 4 号国道の大規模な改良等の必要性が確認された。その結果、交通管理者及び道路管理者との協議を行い、宇都宮向田線と新 4 号国道交差部の南側盛土部分を通過するという案が有力なルートとなった。このルート上で最も地区市民センターに近い平石中央小学校付近に停留場を配置する案である。

新たなLRTの停留場については、利用者数を見込み、アクセス性、利便性等を考慮し配置を検討したので、新たに20番目の停留場というのはなかなか難しいと考えており、先程申し上げた2つの停留場の案で決定していきたいと考えている。

ただし、停留場については、地域の皆様が便利にLRTを活用していただける事が最も大切であるため、2つの停留場の具体的な位置をはじめ、トランジットセンターや駐輪場、バスや地域内交通等との結節をするための附帯施設についても、生活行動実体調査の結果を基に決めていきたいと考えている。

■地域代表意見2（要旨）

テーマ2 柳田緑地の整備について

柳田緑地公園は、近隣の石井緑地や道場宿緑地と比べると非常に行きづらい、行きたくない野球場になってしまっていて、地元の平石地区としては非常に何か寂しい思いをしている。柳田緑地は軟式野球場が5面、ソフトボール場は4面、サッカー場が1面という運動施設があり、日曜日には多くの人が訪れ、夏場になると野球の大会も開かれているなど、色々なスポーツが行われているという状況である。

しかしながら、柳田緑地は先程も話したように行きづらい、どこから入って良いかわからないという様な部分がある。実際に公園に入っていくと道路が狭く、石だらけで、私も1回車のバンパーを割ってしまったことがある。そんなこともあり、ぜひこの辺りの進入道路や公園外の道路の整備をしていただきたいと思う。

それから柳田緑地に関連して、子供広場が設けられているが、周辺の樹木が鬱蒼として子どもが遊ぶ環境には程遠いと感じている。子どもたちが安心して遊べるよう多目的広場的なものに改修をしていただき、トイレ等を設置して樹木を適度に伐採し、子どもたちの遊び場だけでなく、高齢者の散歩コースや鬼怒川堤防を利用してサイクリングをする人たちの休憩所みたいな所にしても良いと思う。柳田緑地は整備すればまだまだ市民のために色々使える気がする。柳田緑地公園を整備することによって、「宇都宮市は人に優しく元気が出るまちだな。」というそんな未来がイメージ出来るまちにしていきたい。ぜひこの柳田緑地公園整備をお願いしたい。

回答 所管課：スポーツ振興課、道路建設課、道路保全課、公園管理課

柳田緑地等の河川敷の運動場については、河川管理者である国土交通省が管理しており、その中で市が許された所だけ管理し運動場等に活用させていただいているが、基本的には国の承諾を受けて、様々な要望にお応えをして行くという手順になることを御理解いただきたい。

まず柳田緑地への侵入標識については、これは市としての役割であるので、利用者の方々に分かりやすいように、柳田緑地帯にスムーズに来られる様な標識の設置をしていきたいが、皆様のほうがより詳しいと思うので、ここに建てるべきだとかという

御意見をぜひいただきたいので、私どもの方で一度御連絡を差し上げるので、現場を立ち合っただけであればと思うのでよろしくお願ひしたい。また、管理事務所東側の堤防部分の侵入道路拡張、そして見通しの悪い場所の改良については、堤防部分の改修が必要になると思うので、国と相談し、できれば国にやっていただければと考えているので、少しお時間をいただければと思う。また御連絡をさしあげる。事務所北側の空き地、河川敷内にある空き地については民有地であり、その一部分については運動場利用者の方が一時的に駐車場として利用することに対して地権者の方に承諾をいただいている。定期的に市としても地権者の方に御承諾をいただいでから整地をしたりしているが、状況が良く無い場合は直ぐ連絡いただければ、市としてもすぐ地権者に了解を得たうえで対応をしたいと思う。

そして子供広場、自由広場については、平成26年12月に広場とサッカー場の間に背の高い雑木があったが、下草の伐採を実施した。夏になるとまた生い茂ってしまうので、それを見計らって見通しが良くなるようにこれからも伐採して行きたいと考えている。また、トイレについては老朽化した物を他の所にあった物を持って来てそれを設置したので、状況を見ていただければと思う。まだ和式の便器なのだが、市としては屋内、屋外関わらず洋式化を計っているので、次の機会は洋式の新しいトイレを設置していきたいと考えている。

また鬼怒川のサイクリングロードについては、自転車の専用道路を更に延伸すると共に、自転車に乗りやすい環境を作り、長い距離を走っていただけるよう、楽しんでいただけるような素晴らしい宇都宮のサイクリングロードを「宇都宮市サイクリングロード整備計画」を基に整備をして行きたいと考えている。鬼怒川サイクリングロードは柳田大橋から真岡市まで25.5キロメートルの区間が整備され、多くの方に楽しんでいただいている。平成27年度に柳田大橋左岸を国と市で整備して行きたいと考えている。そうすることにより、柳田大橋左岸約8キロメートルが全てつながり新たなサイクリングロードとして加わることができ、地元の方々にも大変利便性が高まると共に、自転車に乗りやすい環境が統一されるのではないかと考えている。周辺の白沢宿やグリーンパーク白沢とも連携を図り、自転車の環境の整備を進めて行きたいと考えている。

■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	市民の学ぶ意欲と豊かなところを育むために （１）生涯にわたるスポーツ活動を促進する （２）健全な青少年を育成する
-----	---

総合計画は宇都宮では第5次総合計画を進めている。宇都宮市のまちづくりの最も基本となる計画であり、総合計画に基づき事業を実施し政策を進めていくものである。

（１）生涯にわたるスポーツ活動を促進する

本市として、少子化、超高齢化社会の進行、そして地域コミュニティの希薄化等に伴い、健康づくりや生きがいづくり、地域における連帯感の醸成など、スポーツ活動の果たす役割がますます増大している状況である。

こうした中、スポーツ活動の多面的な効用を活かすために、市民の生涯にわたるスポーツ活動を促進することが重要となる。平石地区を含む清原、平石、瑞穂野の東部地区の特色については、本市の屋外スポーツ施設の集積地域となっており、柳田、石井、道場宿緑地などに野球場、ソフトボール場、サッカー場を備え、市の大会などで大いに活用されている状況である。スポーツ活動を促進するためには、このような施設や公園などの地域資源を活用しながら、市民が気軽にスポーツ活動を楽しむことが出来るような環境づくりを進めて行くことが必要であり、また、それらの活動を支える指導者などの人材の育成や、地域住民の交流や健康づくりなどに寄与するイベントの開催支援など、団体の活性化に取り組むことが必要となる。

このような理由から、「人材や団体自然などの地域資源が活かされながら、市民それぞれの目的に応じた自主的、継続的なスポーツ活動が活発化して、暮らしの中にスポーツがより深く浸透している。」ということをも、今後5年での望ましい姿として目標に設定した。

その目標を達成するために必要な主な事業として、地域スポーツクラブの育成、地域住民が主体となって運営する地域スポーツクラブの設立・運営の支援をさせていただいている。

また、体育施設の再整備であるが、平成25年から改修工事として、清原球場のトイレの洋式化工事等を行った。

そして主な施策指標として、20歳以上の市民の週1回以上のスポーツ活動実施率の増加を今後5年間の目標に設定した。

（２）健全な青少年を育成する

現在、宇都宮市の状況は、少子化や核家族化等により青少年を取り巻く環境が変化し、人間関係や地域社会とのつながりが大変希薄化している状況である。コミュニケーションや自立に不安を抱えている青少年の増加が今、社会問題になっているが、こうした中、将来の夢や希望を育みながら社会の一員として健全な社会生活を営むと

もに、積極的に社会参加、貢献する青少年を育成していくことが重要である。

平石地区における青少年の健全育成については、平出町にある「秘密基地で遊ぶ会」という団体を中心に大変頑張ってもらっており、野外活動などの体験活動に取り組んでいるというお話を伺っているが、子どもたちが身近な場所で、そのような特色ある取り組みを通して人間性や社会性を身に付けて、たくましく成長できるよう、体験活動の促進や異世代交流の場の創出などに行政としても取り組んでいきたいと考えている。

こうしたことから、「青少年が様々な人との係わりの中で、成長段階に応じた社会性を身に付けて心身共に健康に成長し、社会の一員として充実した生活を送っている。」という姿を望ましい形として、今後5年間の目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業は、中高生などの青少年自らが企画するイベントや活動発表などを行う機会や、その場の提供をすること、また地域の皆様や関係団体と連携し、身近な地域において青少年の居場所を提供していきたいと考えている。

主な施策指標は、地域などでの社会的な活動に取り組んでいる青年の割合の増加目標を43.0パーセントとして設定した。

■自由討議（要旨）

発言 1 LRTについて（1）

LRTの運行ルートについて、なぜ南側に寄ってしまったのか。南に需要があるのなら良いが、あるのは高校と大学と清原の市民センターと清原球場である。大学は1年間の半分は休みであり、清原球場は土曜と日曜にイベントが入れば、市民センターはそれなりに使われるのかも知れないが、はたしてこれまで南下させて費用を使う経済効果が無いように思う。もう少し直線的に短距離にすれば、キャノンやホンダの交通の足として8割くらい需要があると思う。

また運営について、営業主体はバス会社ではなく電車などのノウハウを持った業者を入れて、競争させていただければと考えている。

回答 所管課：LRT整備室、土木管理課

【市長】

地域代表意見でお答えしたとおり、LRTの運行ルートについては、宇都宮向田線を通る条件で交通シミュレーションを行ったところ、新4号国道交差部が現状よりも大幅に混雑すると予測され、新4号国道の大規模な改良等の必要性が確認されたため、新4号国道南側の盛土部分を通るルートが有力な案となったところである。

また所要時間については、宇都宮向田線をそのまま直進するルートに比べ、専用の軌道を運行することから、速達性を確保できるものと考えている。

運営会社のお話もいただいたが、御指摘のとおり、競争があり少しでもその競争の

中では効率性やサービス向上が一番大切だと思っており、営業主体としては、採算性が重要である。これらを鑑みて、営業主体を決めて行きたいと考えている。

発言 2 市道 305 号線のスピード感ある整備を

市道 305 号線について、前回のまちづくり懇談会において、「土地の購入・待避所を借地してでも、後に本格的な道路整備」といった積極的な回答をいただいた。地元では待避所を借地することなく、コスト縮減に努力した経緯もある。度重なる測量の回覧をまわすも、先が見えない現状で、次なる手立てが打てない、何の説明もなく先が見えないとの意見がある。

これらの対応に、いささか不満と不安する声があるので、改めて市長が公言する「スピード感を持った対応」ということで、市道 305 号線に向けて対応していただきたい。

回答 所管課：道路建設課

【市長】

市道 305 号線の整備については、宇都宮の東部地域の交通環境の改善に向け県が整備を行っている宇都宮テクノ街道への接続を優先に考えようということで、山下川から宇都宮テクノ街道までの真ん中の部分について、優先的に工事をしたところである。残りの新 4 号国道から山下川までの第 2 整備区間と、宇都宮テクノ街道から辰街道までの第 3 整備区間については、平成 26 年度に道路詳細設計を実施しており、平成 27 年度に用地測量や物件等調査を行い、平成 28 年度から用地取得や物件補償を進める予定である。段階的に整備を進めているので、御理解をいただくとともに、また、地元の方々には御迷惑をお掛けするが、御協力をいただき工事がスムーズに進んで行くようにお力をいただければと思う。

発言 3 平石中央小学校について

平石中央小学校の児童数は 72 名であり、宇都宮でも下から 2 番目に児童数が少ない。平石中央小学校が廃校になってしまうのではないかと心配している。LRT 沿線の農地転用であるが、私は学校周辺の農地転用を理由に学校を閉鎖してほしくない。

また、環状線の西側に道の駅を作ってもらいたい。

回答 所管課：教育企画課

【市長】

平石中央小学校に対する思いを聞かせていただいた。平石中央小学校は大変歴史ある学校である。私としては、決して廃校にならないよう、行政として全面的に平石中央小学校がこれからも 200 年、300 年と歴史を積み重ねていけるよう努力していきたいと思っている。

また、LRTの話もいただいたが、LRTに限らず、これからネットワーク型コンパクトシティということで、公共交通を上手く利用した沿線開発、LRTに関しては沿線開発によってその地域の特色ある地域づくりに方向性を見出していきたいと考えている。当然農地なのでそれぞれのバランスを考えたり、あるいは地域の方々の御意見を伺いながら進めていくことになるが、そのようなまちづくりを積極的に今後も進めていきたいと考えているので、これからも地域の皆様には平石中央小学校、平石北小学校をぜひ大切に育てていただきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

発言 4 LRTについて (2)

我々平石地区の大きな財産は鬼怒川の自然である。この自然を市民が楽しんでもらえるような地域にすれば、もっと新しい需要が増えるのではないかと思う。街の中に住んでいる子どもや高齢者たちが鬼怒川に遊びに来てもらえるようなものを作ろうと考えている。その1つが鬼怒川の自然の整備であり、鬼怒川のサイクリングロードを宇都宮から来て乗ってもらい、LRTにも乗ってもらう。そのためには駅の位置を鬼怒川に出来るだけ近い所、あるいは道路を隔てて鬼怒川で高齢者も子供も遊べる、車も近くに停められる、そういうような環境をぜひ国土交通省と一緒に考えていただきたいと思う。決して清原工業団地と通勤客ばかりのものではない、そういうことを考えた駅の位置、あるいはまちづくりというものを考えて欲しい。

回答 所管課：LRT整備室、道路建設課

【市長】

鬼怒川は宇都宮にとって大きな川であり、我々市民の憩いの場として活用できると共に、鬼怒川を1つの一大観光地にするということも当然出来ると思う。このような様々なアイデアをいただき、何とか宇都宮がこれからも観光地として選ばれる、そういうまちにして行きたいと思うので、常に御意見をいただき我々も常に考えながら進めて行きたいと思う。鬼怒川の自然環境を活用した河川づくりについては、国または下館河川事務所に話をし、どうしたら地元の人達が常に活用でき、そこにLRTで訪れた方々も活用できるような、そういう活用の仕方を右岸でどうにかできないものか、国土交通省と協議を進めて行きたいと思う。

発言 5 校名（市立鬼怒中学校）の見直しについて

鬼怒中学校の名称についてであるが、明治25年10月天皇陛下を迎えての陸軍演習は平出原一帯で実施され、現在の御幸本町内に石碑を建立、以後、平出原一帯が御幸ヶ原・御幸となった経緯がある。開校から35年を迎える今日、鬼怒中学校の名称に愛着のある方もおり関係者への配慮も不可欠と考えている。

しかし、学校等の公共施設は、地域の歴史、文化を長く語り継げるべき施設でなくてはならない。そのようなことから多くの校名は各地域名を冠としているが、鬼怒中学校は異なり、個人的に愛着が感じられず、加えて、当時の生徒も鬼怒中学校の名称に不快感を持つ生徒がいたのも事実である。

については、平石地区まちづくりの観点と地域のモチベーションを高めるには、平石等の冠は不可欠と考える。そのようなことから、鬼怒中学校の校名制定の経緯と、どのようにすれば皆が納得できる見直しが出来るか等について、その手法とアドバイスをいただきたい。

回 答	所管課：教育企画課
------------	------------------

【市長】

鬼怒中学校の名称については、教育委員会に残っている議事録しかもう経緯については分からないが、鬼怒中学校に関係する、御幸が原小学校と御幸小学校、平石北小学校、平石中央小学校の4つの学校それぞれに、中学校名を考えてくださいと打診をしたそうである。やはり、4つの小学校から様々な名前が出て来たそうで、とても地元ではまとめきれない、教育委員会に差し戻して教育委員会で決めて欲しいということで、教育委員会が決めたのが、今の鬼怒中学校になったようである。なぜ鬼怒中学校という名前になったのかは不明である。ただ、その当時の経過は大変重いものであると思うし、そういう中学校名で今まで通ってきたので、それを変えるということはなかなか難しいことだと思うが、これは教育委員会と我々がどうにかすることではなく、地元の皆様が変えたいとなれば話し合いが進むであろうし、変える必要が無いことも選択肢としてはあると思う。よくお考えになっていただければと思う。

発 言 6	L R Tについて (3)
--------------	----------------------

鬼怒川 800 メートルの広大な幅を持った清流が流れているということと、飛山を含む男体山を臨むすごい景観のある場所であり、富士山も眺められる。本当にあの河川の環境を十分に味わっていただくと、宇都宮のシンボルになるのではないかなと思う。よその人が宇都宮に来てみたいという、そういうものを私達が作りPRして行かないと、LRTも生きてこないと思う。そういう意味でぜひ、鬼怒川にLRTの停留場を作っていただくということが、ただ通勤、通学にだけ使うものではなく、宇都宮市のシンボルになっていくということに繋がって行くのではないかなと思う。そこに道の駅とか川の駅とか、色々なものが複合して自転車のサイクリングロードにも繋がって行くと思うし、色々な夢が繋がって行くと思うので検討をして欲しい。

回 答	所管課：L R T整備室
------------	---------------------

【市長】

総括的にまとめていただき感謝する。そのような考え方で進めていきたいと考えており、宇都宮市の大きな発展のために公共交通ネットワークの構築を図っていきたい。